

情報連絡員総括表（2023年1月）

— 静岡県中小企業団体中央会 —

本書は、静岡県中小企業団体中央会が委嘱した情報連絡員〔協同組合等の役職員 60 名〕による毎月の景況調査の集計結果です。

1. 概況報告
2. 項目別の前月・今月のDI 値の比較
3. 情報連絡員からの報告
4. 主要三指標におけるDI 値の推移（グラフ）

・本調査の見方・

◎売上高等の9項目につき 前年同月と比較し、好転・不変・悪化 のいずれかを回答

$$DI \text{ 値} = [(好転組合数 - 悪化組合数) / 調査対象組合数] \times 100$$

※全項目が前年同月比「不変」となった場合は、DI 値は基準値 ± 0.0 (=横ばい)で推移
 ※「在庫数量」のみ、プラス値が高いほどマイナス要因と定義

1. 概況報告 (回答者数 58 名 : 回収率 96.7%)

○2023年1月のDI 値は、前月との比較において、主要3指標である「売上高」「収益状況」「業界の景況」を含む7指標が悪化し、「在庫数量」「資金繰り」のみが改善した。「売上高」は製造業、非製造業ともに大きく落ち込み、マイナス10.3ポイントと前月を25.8ポイント下回り、昨年4月以来のマイナス値となった。「業界の景況」もマイナス38.0ポイントと前月を17.3ポイント下回る厳しい状況を示している。

新型コロナウイルス第8波の影響を強く受けた非製造業において、落ち込みが大きく現れた。

○「製造業」では、前月との比較において、「在庫数量」「収益状況」のみ改善し、その他7指標が悪化した。「収益状況」は前月を3.4ポイント上回ったものの前年比マイナス43.3ポイントと基準値を大きく下回っており、原材料や光熱費の高騰、価格転嫁の難しさから収益確保に苦しむ深刻な状況が続いている。

水産食品品製造業からは、「いくらコストダウンや売上伸長に努めても、インフラコストの増大により努力が水泡に帰す状況から脱することができない」とコメントが寄せられた。

○「非製造業」では、前月との比較において、「在庫数量」「資金繰り」のみ改善し、その他6指標が悪化。「業界の景況」は前月を25.1ポイント下回るマイナス39.3ポイントとなった。

街中や観光地にヒトが戻りつつあった先月から一転し、新型コロナウイルス第8波が宿泊業、道路旅客運送業、商店街の回復の動きを停滞させている。

また、原材料や資材の高騰も深刻であり、総合工事業からは、「建築費の高騰が収まらず、建築工事の延期や規模の見直し等が出ている」とコメントが寄せられた。

(DI値)

	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業度	雇用人員	業界の景況
2023年1月	-10.3	-2.3	29.3	-10.3	-29.3	-22.4	3.4	-12.1	-38.0
2022年12月	15.5	20.9	36.2	-6.9	-25.9	-22.5	13.3	-3.4	-20.7
増減	-25.8 ↓	-23.2 ↑	-6.9 ↓	-3.4 ↓	-3.4 ↓	0.1 ↑	-9.9 ↓	-8.7 ↓	-17.3 ↓

2.項目別の前月・今月のDI値の比較

		製造業				非製造業				全体			
		DI値	増減			DI値	増減			DI値	増減		
売上高	2023年1月	-10.0	-26.6	ポイント	↘	-10.7	-25.0	ポイント	↘	-10.3	-25.8	ポイント	↘
	2022年12月	16.6				14.3				15.5			
在庫数量	2023年1月	6.7	-16.7	ポイント	↗	-21.5	-36.9	ポイント	↗	-2.3	-23.2	ポイント	↗
	2022年12月	23.4				15.4				20.9			
販売価格	2023年1月	23.4	-3.2	ポイント	↘	35.7	-10.7	ポイント	↘	29.3	-6.9	ポイント	↘
	2022年12月	26.6				46.4				36.2			
取引条件	2023年1月	-16.6	-3.2	ポイント	↘	-3.5	-3.5	ポイント	↘	-10.3	-3.4	ポイント	↘
	2022年12月	-13.4				0.0				-6.9			
収益状況	2023年1月	-43.3	3.4	ポイント	↗	-14.3	-10.7	ポイント	↘	-29.3	-3.4	ポイント	↘
	2022年12月	-46.7				-3.6				-25.9			
資金繰り	2023年1月	-30.0	-3.3	ポイント	↘	-14.3	3.5	ポイント	↗	-22.4	0.1	ポイント	↗
	2022年12月	-26.7				-17.8				-22.5			
設備操業度	2023年1月	3.4	-9.9	ポイント	↘	/				3.4	-9.9	ポイント	↘
	2022年12月	13.3				13.3							
雇用人員	2023年1月	-10.0	-3.3	ポイント	↘	-14.3	-14.3	ポイント	↘	-12.1	-8.7	ポイント	↘
	2022年12月	-6.7				0.0				-3.4			
業界の景況	2023年1月	-36.7	-10.0	ポイント	↘	-39.3	-25.1	ポイント	↘	-38.0	-17.3	ポイント	↘
	2022年12月	-26.7				-14.2				-20.7			

今月の業種別回答件数

		売上高		在庫数量		販売価格		取引条件		収益状況		資金繰り		設備操業度		雇用人員		業界の景況		
		増加	減少	増加	減少	上昇	悪化	好転	悪化	好転	悪化	好転	悪化	上昇	悪化	増加	減少	好転	悪化	
製造業	食料品	1	2	0	2	1	0	1	0	0	2	0	2	0	1	0	1	0	2	
	繊維工業	1	1	0	0	1	0	0	1	1	1	0	1	2	1	1	1	1	1	
	木材・木製品	0	1	1	1	1	1	0	2	0	4	0	2	1	1	0	1	0	4	
	紙・紙加工品	0	1	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	
	印刷	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	
	窯業・土石製品	1	1	1	0	2	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	1	0	1	
	鉄鋼・金属工業	2	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	2	0	0	1	0	0	1	
	一般機器	1	3	1	1	0	0	0	1	0	4	0	1	1	1	0	1	0	2	
	電気機器	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	輸送用機器	3	2	3	0	2	0	1	1	2	1	0	1	3	1	2	1	2	2	
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
非製造業	卸売業	0	2	0	0	1	0	0	0	0	2	0	1	X		0	1	0	2	
	小売業	1	2	1	2	2	2	0	1	0	3	0	2			0	2	0	3	
	商店街	2	2	0	2	4	1	0	1	1	1	0	1			0	1	0	3	
	サービス業	2	0	X		2	0	0	0	2	0	0	0			1	1	2	0	
	建設業	1	3			2	0	1	0	1	2	1	0			0	0	0	0	3
	運輸業	1	1			2	0	0	0	0	0	0	0			0	1	1	1	0

3.情報連絡員からの報告

製造業

水産食料品	<ul style="list-style-type: none"> ・電気料金の高騰に加えて、副資材の値上がりが止まらない。販売商品への価格転嫁もままならず、収益性は下がる一方である。業界景気状況は良くない。 ・いくらコストダウンや売上伸長に努めても、電力・ガス等のインフラコストの増大により努力が水泡に帰す状況から脱する事ができない。取引先(仕入先)も余力を残して廃業したい意向を示すなど周辺環境も悪化の一途を辿っている。
パン	<ul style="list-style-type: none"> ・輸入麦の政府の売り渡し価格の改定は4月と10月の2回あり、昨年10月は据え置きとなったものの、本年4月の価格は改定が予想される。さらに食料安全保障の強化に伴い政府が国産小麦・米粉の利用拡大を施策の一つとしているが、価格面での課題は大きい。
織物業	<ul style="list-style-type: none"> ・綿織物の受注は数量的には少ないものの断続的に入っている。正絹織物は、受注は安定しているが織屋の減少が続き毎年1~2軒の減少となっている。ここ数年で体制の一新を図る必要に迫られる。
宗教用具	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度より若干の売上増を見込めたが、手放しでは喜べない現状である。ただ、生産に関する副資材等が一時的ではあるが約40%増と活発な動きだったため、多少の期待が持てる。
製材業、木製品	<ul style="list-style-type: none"> ・直近の2か月は、前年度に比べ操業低下が顕著になった。住宅建築需要の落ち込みの影響が如実に反映されている。
骨材・石工品等	<ul style="list-style-type: none"> ・売上は先月から低調であり、1月は前期同月を大きく下回る。在庫は増加傾向であり、収益は厳しい。
金属製品	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギーや原材料高により、収益率が著しく悪化している。 ・電気・ガス代の高騰による影響が大きい。
生産用機械器具	<ul style="list-style-type: none"> ・人材不足により新規受注が外注頼みになっているため、売上利益増に繋がらない。操業負荷は少し増えているものの、各社をみると一部100%というところがあるが、全体ではまだまだ厳しい状況が続いている。 ・部品調達遅れから受注断念するケースがあることから、先々の受注を見越し先行した部品調達傾向にあり、在庫増加の一因となっている。
電気機械器具	<ul style="list-style-type: none"> ・輸入の電気部品の一部に調達問題が継続している。 ・大型冷蔵庫と家庭用エアコンは販売鈍化傾向により下方修正となった。 ・業務用エアコンは国内向けと輸出向け共に概ね計画通りに推移している。
輸送用機械器具	<ul style="list-style-type: none"> ・組合員中小企業の多くは、国の賃上げ促進や大企業の賃上げ動向に対して重要な選択を迫られている。我々中小企業が賃上げを達成するためには、大企業における円安の恩恵や資材・原料の高騰分を如何に下請け中小企業へ価格転嫁するか、ここに問題があると思われる。 ・全体的に生産量が戻ってきているが、受注部品により企業間でバラツキが出ている。各社共通の課題は人手の確保で、時間外労働時間の制約がある中で大きな課題になっている。 ・受注量が少なく厳しい状況に変化なし。

非製造業

セメント卸売業	<ul style="list-style-type: none"> ・3ヶ月連続で前年同月実績を下回り、依然として需要低迷が続き先行き不透明である。3月よりメーカー仕入価格の値上げを受入れた。
各種商品卸売業	<ul style="list-style-type: none"> ・インフレ、資源高等、外部要因による止むを得ない商品値上げ交渉において、相手が大手、上場企業の場合、認められないケースが多く、結果、納入業者である中小企業の利益が削られてしまう。これが下請法が適用される取引関係であれば下請け企業が保護される。前述のような下請関係にない取引にも中小企業が保護される法令を是非整備してほしい。

鮮魚小売業	・前月同様に、小売店の売上は前年を上回ったものの、内食から外食への需要の移行、物価上昇に伴い、消費者の節約志向の強まりで、コロナ前の水準には及ばなかった。業務卸の売上も法人客の回復が限定的で売上は伸び悩み、また更なる原材料等の価格上昇により収益状況は非常に厳しいものとなった。
各種商品小売業	・3年間コロナ禍が続いたため、一度悪くなった状況は中々元に戻らない。とにかく普通に戻してほしいと願っている。
	・1月2日と3日に獅子舞の正月イベントを実施した。去年よりも人出が多く、2日の初売りは来店客も増えた。しかしながら、その後はコロナの感染者も増加し、まだまだ売り上げは回復していない。「どうする家康」の放送が始まり、浅間神社の大河ドラマ館のオープン、歴史博物館のオープンで県外からの観光客の誘致やインバウンドのお客様の来街を期待したい。また、長引くコロナの影響で、浜松店との統合などの理由で閉店する店があった。
	・国や市の経済対策もあり、昨年1月に比べれば、だいぶ戻ってきていることを実感する。
宿泊業	・コロナウイルス第8波の影響で、1月中旬から後半にかけて予約の伸びが停滞した。全国旅行支援が延長されたが、期待したほどの伸びは見られない状況であった。人手不足により、空室があっても受け入れできない状況で「売り止め」せざるを得ない宿泊施設が多くみられた。
総合工事業	・年明けから各メーカー・小売店の値上げ発表があり、いつまで続くか分からない状況である。職人からは4月迄仕事の予定が入っているという声も聞こえる。
	・建築費の高騰が収まらず、建築工事の延期及び規模の見直し等が出ている。予算組みをした時期によって差額幅が1.5倍程度になる物件もある。これから年度末にかけて県内の中小物件が少ないと聞いているので、受注競争が激しくなると思われる。その結果、単価が下げられ業界自体には良くない傾向になる。
職別工事業	・昨年同時期と比較して、1月の状況同様に落ち着いている模様。ただ、年度末、年度初め時期に少し谷が来そうな模様で、多少の危機感が芽生えている。短期的に見ると、悪化する状況もあろうかと感じる。
道路貨物運送業	・1月初旬は正月休み明けの荷物が集中したものの、中旬はその反動で荷動きが減少した。また後半は大雪の影響で一部の高速道路で車両が足止めとなり混乱した。月末にかけては荷物の情報量が少なく、運賃も下落傾向となった。
道路旅客運送業	・回復傾向が見られた旅客需要も、第8波感染拡大の影響もあり回復が停滞している感が見られる。12月期の運送収入比では、昨年より0.9%と微増にとどまっており、1月・3月の閑散期を迎えるこの時期に厳しい経営状況が続くものと思われる。雇用調整助成金の特例措置が終了するようであるが、まだまだ経営を下支えするような支援策に期待せざるを得ない状況である。

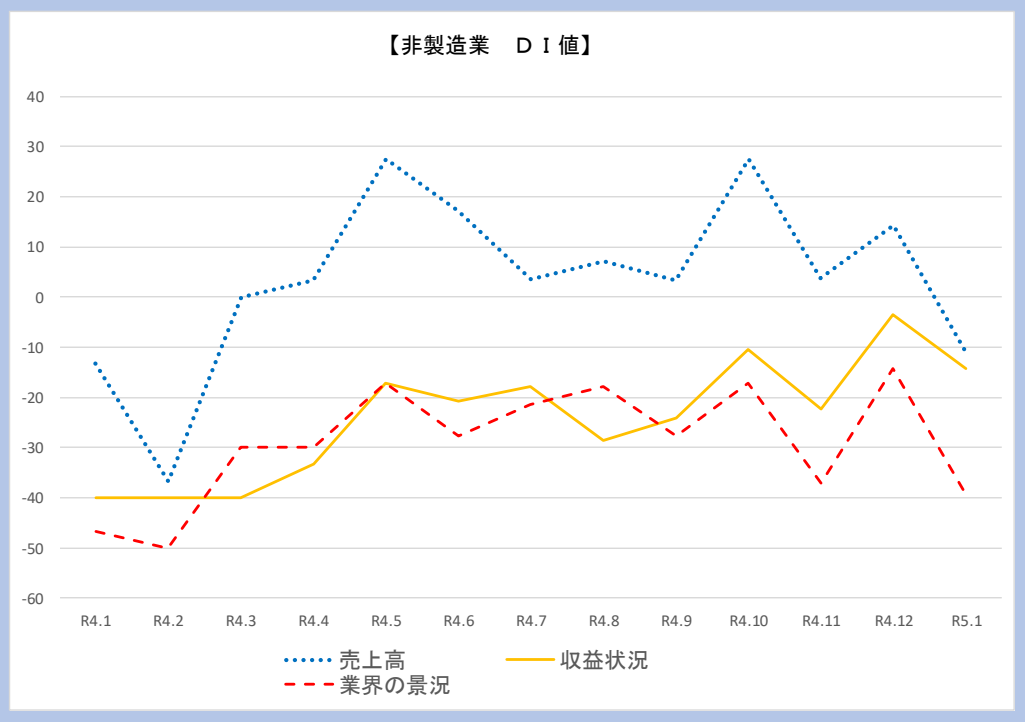
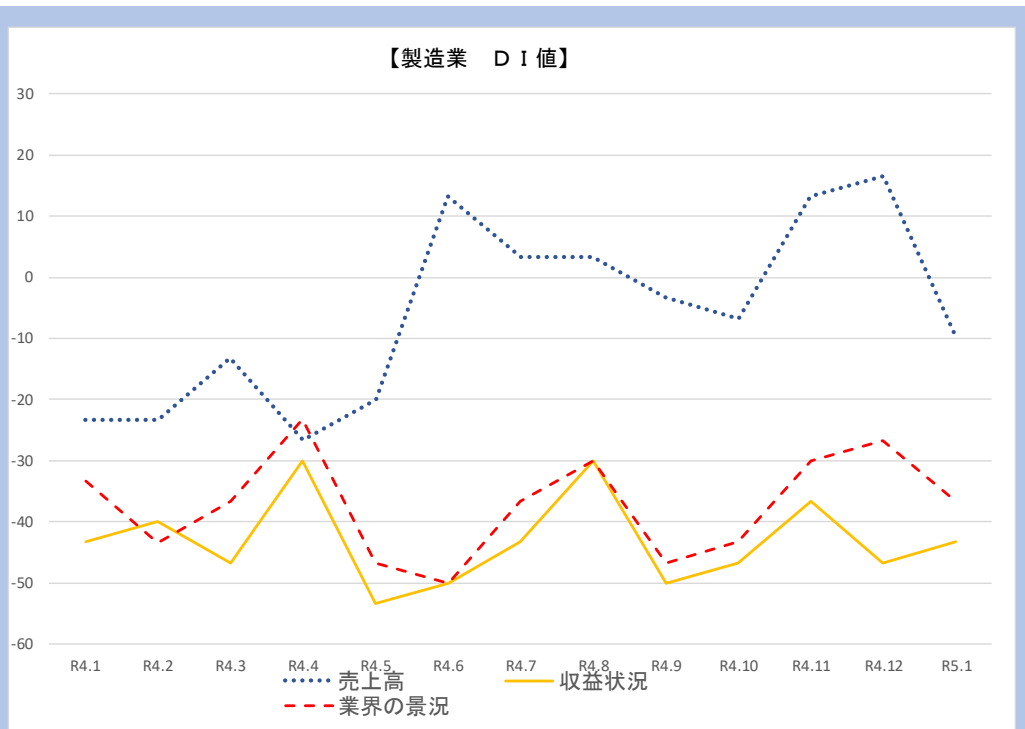
4. 主要三指標における DI 値の推移

■2022年1月期～2023年1月期までの推移

全体	R4.1	R4.2	R4.3	R4.4	R4.5	R4.6	R4.7	R4.8	R4.9	R4.10	R4.11	R4.12	R5.1
売上高	-18.3	-30.0	-6.6	-11.7	3.4	15.3	3.5	5.2	0.0	10.2	8.8	15.5	-10.3
収益状況	-41.7	-40.0	-43.3	-31.7	-35.6	-35.5	-31.0	-29.3	-37.2	-28.9	-29.9	-25.9	-29.3
業界の景況	-40.0	-46.6	-33.4	-26.7	-32.2	-39.0	-29.3	-24.1	-37.3	-30.5	-33.4	-20.7	-38.0

製造業	R4.1	R4.2	R4.3	R4.4	R4.5	R4.6	R4.7	R4.8	R4.9	R4.10	R4.11	R4.12	R5.1
売上高	-23.3	-23.4	-13.3	-26.6	-20.0	13.3	3.3	3.3	-3.3	-6.7	13.3	16.6	-10.0
収益状況	-43.3	-40.0	-46.7	-30.0	-53.4	-50.0	-43.3	-30.0	-50.0	-46.7	-36.7	-46.7	-43.3
業界の景況	-33.4	-43.4	-36.7	-23.3	-46.7	-50.0	-36.6	-30.0	-46.7	-43.3	-30.0	-26.7	-36.7

非製造業	R4.1	R4.2	R4.3	R4.4	R4.5	R4.6	R4.7	R4.8	R4.9	R4.10	R4.11	R4.12	R5.1
売上高	-13.3	-36.7	0.0	3.3	27.6	17.3	3.5	7.1	3.4	27.6	3.7	14.3	-10.7
収益状況	-40.0	-40.0	-40.0	-33.3	-17.2	-20.7	-17.8	-28.5	-24.2	-10.4	-22.2	-3.6	-14.3
業界の景況	-46.6	-50.0	-30.0	-30.0	-17.2	-27.6	-21.4	-17.8	-27.6	-17.2	-37.0	-14.2	-39.3



■ 2022年1月期～2023年1月期までの推移

売上高	R4.1	R4.2	R4.3	R4.4	R4.5	R4.6	R4.7	R4.8	R4.9	R4.10	R4.11	R4.12	R5.1
製造業	-23.3	-23.4	-13.3	-26.6	-20.0	13.3	3.3	3.3	-3.3	-6.7	13.3	16.6	-10.0
非製造業	-13.3	-36.7	0.0	3.3	27.6	17.3	3.5	7.1	3.4	27.6	3.7	14.3	-10.7

収益状況	R4.1	R4.2	R4.3	R4.4	R4.5	R4.6	R4.7	R4.8	R4.9	R4.10	R4.11	R4.12	R5.1
製造業	-43.3	-40.0	-46.7	-30.0	-53.4	-50.0	-43.3	-30.0	-50.0	-46.7	-36.7	-46.7	-43.3
非製造業	-40.0	-40.0	-40.0	-33.3	-17.2	-20.7	-17.8	-28.5	-24.2	-10.4	-22.2	-3.6	-14.3

業界の景況	R4.1	R4.2	R4.3	R4.4	R4.5	R4.6	R4.7	R4.8	R4.9	R4.10	R4.11	R4.12	R5.1
製造業	-33.4	-43.4	-36.7	-23.3	-46.7	-50.0	-36.6	-30.0	-46.7	-43.3	-30.0	-26.7	-36.7
非製造業	-46.6	-50.0	-30.0	-30.0	-17.2	-27.6	-21.4	-17.8	-27.6	-17.2	-37.0	-14.2	-39.3

